

令和元年度第2回新宿区東京2020大会区民協議会 会議概要

<開催日>

令和元年9月12日（木）

<場所>

新宿区役所第一分庁舎7階 会議室

<出席者>

新宿区東京2020大会区民協議会委員（21名）

村岡功、鈴木章生、渡邊哲意、山田和男、田中稔、武山昭英、古川哲也、青山豊、安齋正義、丸山由美子、今井康之、小林優子、的場美規子、李承珉、山本芳裕、吉住はるお、鈴木ひろみ、吉住健一、寺田好孝、鈴木昭利、酒井敏男

事務局（2名）

加賀美東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部長、浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長

<開会>

【村岡座長】

令和元年度第2回東京2020大会区民協議会を開催します。

次第に入る前に、事務局から新委員の紹介をお願いします。

<新委員の紹介、委嘱状の交付>

【村岡座長】

それでは、次第に沿って進行を進めます。

次第の1、部会の報告についてです。

はじめに、本年度における協議会の流れを振り返りたいと思います。令和元年度第1回の協議会を5月に開催しました。その後、6月、7月と各部会において、今年度に行う取組みの推進をテーマに検討を行いました。本日は、この結果を各部部长より報告していただき、情報共有を図りたいと思います。

まず、東京2020大会普及啓発部会の検討結果について、渡邊部部长より報告をお願いします。

【渡邊部部长】

それでは、報告します。

資料1「東京2020大会普及啓発部会における意見まとめ」をお開きください。

東京2020大会普及啓発部会では、大会250日前イベントなどの大規模なものから、地域における大会PRなど小規模なものまで、効果的に行っていくにはどうしたらよいかという観点で話し合ってきました。

部会で出された意見は、1ページに、東京2020大会気運醸成イベント、2ページに地域における大会の普及啓発、3ページに各取組みの連携と、3つに分けてまとめました。

まず、1ページ(1)大会250日前記念イベントについてをご覧ください。

1つ目の意見は、子どもたちをメインターゲットとして展開しつつ、高齢者や障害者、外国の方など誰もが楽しめるものとして行ってほしいというものです。現在の区の東京2020大会気運醸成イベントは、ターゲットを明確にした効果的な普及啓発の推進という昨年度の部会の検討結果を受け、色々な方々が楽しめる多彩な内容となっています。だからこそ、改めてどういった方々をターゲットとしたイベントにするかを考えて展開してほしいと思います。

2つ目の意見は、パラスポーツは、体験して初めてその楽しさを知ることができるため、パラスポーツの体験ができるような内容にしてほしいというものです。

3つ目の意見は、スポーツ体験はもちろん、会場開催地域の文化を伝える内容なども盛り込んでどうかということです。オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典である一方で、文化の祭典でもあるため、この機会に文化の発信をすることも重要です。今回のイベントは落合地域での開催ということで、落合の染め物の文化などを伝えるような内容を盛り込んでほしいと思います。

4つ目の意見は、参加者はイベントの最初から最後まで楽しめて、1日を通して継続的に参加できる内容としてはどうかということです。これに関しては、前回の500日前イベントでは、時間帯によってにぎわいが少なくなり、非常にもったいないというところがありました。例示に記載したような形で、プログラム構成を戦略的に考えてはどうかという意見が出ました。

5つ目は、イベント開催の周知を多方面から行ってはどうか、また、開催地域の住民の方々に対するPRにも力を入れてはどうか、という意見です。前回の500日前イベントは西新宿でしたが、今回の250日前イベントは落合です。区内で新国立競技場から最も離れた地域であるため、ここを会場とすることで、落合地域においてオリンピック・パラリンピックに向けた盛り上げを図ることができ、新宿区全体としてもさらに盛り上がるのではないかとということです。そのため、他の地域から多くの方々にお越しいただくことはもちろん、落合地域にお住まいの方々により多くお越しただけるように、落合地域におけるPRに力を入れてほしいという意見です。

続いて、(2)新宿2020パレードについてです。

1つ目の意見をご覧ください。これは、文化の発信はもちろん、大会気運の醸成という事業趣旨が伝わるような内容としてほしいという意見です。パレードの場合、観客の多くはその日たまたま新宿に来た方が多いかと思しますので、そういった方々がパレードを見たときに、オリンピック・パラリンピックを想起できるような内容にする必要があります。パレード全体として、東京2020大会の気運醸成が図れるようなプログラムにしてほしいと考えます。この点については、新宿2020パレードだけではなく、大会250日前記念イベントについても言えることで、オリンピック・パラリンピックならではの内容とすることが重要です。どこまでできるかはわかりませんが、例えば聖火のトーチを展示するなど、まさに東京2020大会の気運醸成に向けた内容としてほしいと思います。

次に、2ページをご覧ください。地域における大会の普及啓発についてです。

(1) 東京五輪音頭-2020-については、目標や特典があった方が目的意識を持って参加してもらうことができるので、様々なゴールを設定して、展開していったらどうかという意見が出ました。現在は、各地域で講習会を開き、参加者に各地域のお祭りなどで踊っていただくというを実施していますが、ただ広めるだけではなく、何かゴールを用意した方がもっと広がっていくのではないかと、またゴールは一つではなく、たくさんあっても良いのではないかと、ということです。どういうゴールを用意するかについては、例示に挙げているとおり、表彰や検定証の発行、コンテストの開催などが考えられます。講習会の参加者は非常に多いので、ぜひ積極的に活用してほしいと思います。

(2) 地域イベント等でのPRについてです。

1つ目の意見は、写真を撮るだけではなく、参加者が大会について楽しみながら考えることができるような内容を盛り込んでどうかというものです。

また、2つ目は、認知度の高い大会マスコットなども活用し、PR性を高めていったらどうかという意見です。大会まであと1年を切っていますので、例示にあるようなクイズラリーや応援メッセージの募集など、参加者が大会についての興味を深めたりすることができるような内容にするとともに、エンブレムやマスコットを活用して、もっとオリンピック・パラリンピック色を強めてPR性を高めることが重要です。エンブレムやマスコットは、区は許可を取れば使用できるし、特にマスコットは子どもたちに非常に人気が高いです。これを使わないのは非常にもったいないので、マスコット等を活用して展開したほうが良いと考えます。

(3) デイカウンターの活用についてです。

1つ目として、表示内容を更新して、見る者を飽きさせないことはもちろん、著名なアスリートを掲載するなど、インパクトのある表示内容としてはどうかという意見が出ました。現在は区民の方々を多く登場させていますが、自分が画面に写っているところを見ることは非常に難しい状況です。そうであれば、せっかく大会500日前記念イベントなど著名なアスリートが出演しているため、そういった方々を多く活用して、見た人があつと思うような内容にした方が良いのではないかと、ということです。

そして、3ページ目、各取組みの連携についてをご覧ください。

大会に向けた様々な取組みを相互に連携させて実施することで、より効果的、効率的な取組みとしてほしいという意見です。

例えば、五輪音頭講習会に参加された方が大会250日前記念イベントや新宿2020パレードにおいて踊りを披露できるようにするといったことなど、もっと視野を広げれば全庁的な連携、この協議会の各団体の皆様との連携、あるいは東京都組織委員会との連携ということも考えられます。単一で行うよりも、複合的に行った方がより効果が増すと思いますので、シェアを広く持ってもらえれば良いのではないかと思います。

最後になりますが、今年度の部会の検討は各委員から自由なアイデアをいただきながら行いました。大会500日前記念イベントや大会250日前記念イベントなどは、昨年度の部会での検討結果を受け、各団体の協力のもとに行われる現在の形になっています。大会まであと1年を切

り、残り時間が少ない中でどこまでできるかということがありますが、我々の意見を参考にし、有意義に取り組んでいただければと思います。

以上が、東京2020大会普及啓発部会の報告になります。各委員において、補足等がありましたら、よろしくお願ひします。

【委員】

ただいま報告にありました、パラスポーツの普及は体験があつてこそという点について、補足します。

新宿区では、力を入れてボッチャを実施していると思いますが、私の住んでいる柏木地区でも、コミュニティスポーツ大会の地区大会において、ここ数年ボッチャ体験を組み入れています。その場では、輪投げ競技に来ている高齢者の方にも時間を見て体験していただいています。高齢者の方でも簡単にできる、ルールもわかりやすいということで大変評判が良かったところです。今年から中央大会で正式種目になり、地区大会でも参加者を募集することにしました。柏木小学校と淀橋第四小学校では放課後のこどもひろばでボッチャを行っているとお聞き、お声掛けしたところすごく反応が良かったので、今回、小学校のPTAの方にお願ひして募集しています。

今までは、コミュニティスポーツ大会はなかなか小・中学生の参加が少なかったのですが、これを機会にボッチャ競技で子どもたちの参加が増えれば非常にありがたいです。オリンピック・パラリンピックの気運醸成に加えて、子どもたちがコミュニティスポーツ大会に出ることで地域の方々と交流を深めることが非常に良いと思いますので、こういった機会をまた設けていけたらと思っています。よろしくお願ひします。

【村岡座長】

ありがとうございます。

【委員】

柏木地区では地域センター祭りを11月17日に開催する予定です。このセンター祭りの中で、ロンドンオリンピック、リオオリンピックで、水泳女子200メートルバタフライで銅メダルを獲得された星奈津美さんに来ていただいて、約1時間の講演と様々なブースと一緒に回って、子どもたちや地域の人たちと触れ合っていただくことを計画しています。また、先ほどの報告にもありましたが、東京五輪音頭-2020-をセンター祭りの舞台発表の中で、小学生、中学生を中心としたメンバーで披露したいと思っています。

また、宝塚大学の学生の皆様と一緒に、トリックアートに関してさらに華やかな取組みができないかということで、これから実行委員会の中で話し合いをしていくことになっています。地域センター祭りには、延べ2,000人の参加者に来ていただくので、かなりのPRになると思ひ、11月の開催に向けて取り組んでいます。

【村岡座長】

ありがとうございます。

【委員】

報告と情報提供をさせてください。

まず報告ですが、9月7日に障害者福祉センターの主催で「ゆる〜くボッチャ」というボッチャ大会を行いました。吉住区長にも来ていただいて始球式をやっていただいたほか、総勢120人29チームが参加して、3時間にわたって本気度の高い白熱したボッチャを展開しました。この大会には、スポーツ推進委員、新宿区福祉部の職員で構成するオリ・パラプロジェクトチーム、社会福祉協議会、民生委員、地域のボッチャクラブ、就学前の方々、小学校のチーム、家族のチーム、また、新宿CSRネットワークという企業のチームなど、様々な方々に参加していただきました。ボッチャはもともと重度の障害の方でもできるスポーツとして普及していますので、やはり障害者の方々と触れ合う機会にもなるとともに、すばらしいプレーを見る、そして自らも体験することができたのではないかと考えています。

続いて情報提供です。障害者福祉協会の方で、新宿区東京2020オリンピック・パラリンピック区民参画事業助成に申請をしており、3月1日にパラスポーツ体験のイベントを企画しています。これは、やはりパラスポーツは体験して初めて実感するものということで、シッティングバレーの団体をお呼びしたり、地域の様々な団体のブースを設けたり、といったことを計画していますので、また日程が近くなりましたら、この協議会の場で報告したいと思っています。

【渡邊部会長】

ありがとうございました。

以上で、部会報告を終わります。

【村岡座長】

ありがとうございました。

それでは、続いて、ボランティア部会の検討結果について、鈴木部会長より報告をお願いいたします。

【鈴木副座長】

それでは、ボランティア部会の意見のまとめということで、資料2に沿って説明します。

ボランティア部会では、新宿2020サポーターの方々にとどのように活躍していただけるかということについて、大会250日前記念イベントと新宿2020パレードを中心に、色々と検討しました。

部会で出された意見は、3つに分けてまとめています。

1つ目は、効果的なPR活動、すなわち、いかに活動をPRし、新宿2020サポーターを知っていただくかということについて。2つ目は、サポーターの活動内容の工夫について。3つ目は、オリンピック・パラリンピックが終わった後の活動をどうしたら良いかということについてです。

まず、1ページ(1)効果的なPR活動について、説明します。ここでは、6つの意見を上げています。

まず1つ目の意見ですが、ようやく大会1年前になり、日々大会に関する報道も増え、露出

度が高くなっていると思います。そうした流れになってくると、サポーターの登録者、それから実際のイベントへの参加者も徐々に増えていくのではないかということで、PR活動を地道に継続して行ってほしいという意見が出ました。

それから、2つ目及び3つ目の意見につきましては、電子媒体、特に今はSNS等がありますので、そういったものを活用するということと、外国人の方が多い新宿区の特徴に合わせて、外国語による案内、活動紹介等をぜひ行ってほしいということです。

それから、4つ目ですが、サポーターの登録要件や登録方法だけでなく、実際の活動内容を前面に打ち出して、具体的に発言、発信することによって、新たな登録につながっていくのではないかという意見です。

例示に挙げているとおり、区の公式ホームページ等で、実際にサポーターが活動している情報、すなわち実施時期や活動内容等はもちろん、活動している生の姿、楽しく活動している風景をPRしていくことによって、登録者、参加者を募るといったことです。

それから、5つ目ですが、新宿2020サポーター活動の楽しさ、面白さを発信していただくかということです。どうしてもルールや制約といったところから活動内容が紹介されがちですが、活動することによって得られる楽しさや人のつながりといった、様々な魅力を前面に出して、入口にしていただこうかという意見です。

例えば、イベントに有名なアスリートの方々が来ているということで、こういう人に会える楽しみがあるとか、楽しいイベントに参加できるということを前面にPRしてほしいということです。

最後に、6つ目の意見ですが、こちらは、昨年度の報告書にもまとめたとおり、新宿2020サポーターがイベントで活躍するのと同時に、PRの場にもなっているということから、例示に上げるように、サポーターコーナー、すなわち新宿2020サポーターの活動紹介や登録受付をするコーナーを作ってほしい、それから、大会250前記念イベントにおいて、環境福祉、障害福祉など様々な分野のボランティアとあわせてサポーターの紹介をしてほしいということです。

2ページをお開きください。

(2) サポーターの活動内容の工夫です。部会においては、これがかなり大きく議論となったところで、5つ意見を上げております。

1つ目は、人のつながりがとても重要ではないか、サポーターどうしの横のつながりが増えていけば、サポーターの活動の輪が広がっていき、サポーターどうしが誘い合わせて区のイベントと一緒に参加するという動きが活発化するのではないかという意見です。サポーターに登録し、参加してみて面白いと、友人や知人にあなたも一緒にやりませんか、サポーターが自分の仲間を引っ張ってきてくれるという期待が持てます。こうしたつながりが自然に生まれていくような仕掛けを様々なところで用意してほしいと考えています。例示に挙げているサポーター交流会、これはサポーター同士が楽しい場、それからサポーター同士で色々な悩みや楽しみなどを交流しながら話し合う場になると同時に、友達どうしをサポーターに引き込む要因にもなると思います。

それから、3つ目の意見についてです。ページの下部【新宿2020サポーター登録状況】をご覧ください。年齢別のグラフにあるとおり、サポーターの登録者は若い方が比較的多く、中学生も入っています。

一般的にボランティア活動というと、会社等を定年退職された60代以上の方が多く参加するのですが、今回の登録状況を見ると40代、50代、まさに働いている世代が多く参加しているという傾向が見られます。こうした方々にぜひ積極的に活動していただきたいと思いますが、どうしても会社等にお勤めの方が多いと、活動時間などの制約があると思います。そこは柔軟に対応して活動のハードルを下げ、1時間でも、2時間でも良いという形で活動する場を提供していきたいと考えています。

4つ目の意見は、3つ目の意見と連動してきますが、サポーターの登録状況などを踏まえて、スケジュール調整をできるようにしてほしいということです。それから、早い段階から、イベント情報などをお知らせしていくことが重要と考えています。1週間前にお知らせが来たのでは、既に来週の予定はもう詰まってしまうことが多いと思います。働いている世代が多いことを踏まえると、1か月前などなるべく早目に情報提供して、サポーターが参加する機会を増やすことが重要ということです。

3ページをお開きください。

(3) 今後について、4点ほど意見を挙げています。

1つ目は、今後、登録者、活動者が増えた場合、役割分担等が重要になってくる中で、「どなたでも気軽に」ということがとても重要という意見です。サポーター活動をしていくと同時に、サポーター側に考えてもらい、一定の枠組みの中で主体的に関わってもらおうということを検討していく必要があると考えています。

制度自体が今年の5月から始まり、まだまだ未熟な組織運営かと思われませんが、一番重要なことは、一度積極的に関わって、リーダー格、すなわち核になるような人を見つけ出して、サポーター自身がイベント活動をこうしたら良くなるといったことや、こういう工夫したらもっともつとうまくいくということ、主体的に考えてもらうような組織づくりや、運営の仕方をぜひ考えて検討していただきたいと思います。

それから、3つ目の意見についてです。これもまた核というのがキーワードですが、一つ目の意見と連動する中で、サポーターの中心となる方を出てきやすくするための仕掛け、すなわち、サポーター交流会などでとても活発な意見を出してくれる方たちを探して、ボランティア活動の中核を担ってもらおうよう、積極的なアプローチを行っていただきたいということです。

最後に、4つ目の意見です。大会後に向けて、せっかく集まっていたこの新宿2020サポーターの人材を、大会終了とともにそのまま終わりにするのは、非常にもったいないと思います。当初からボランティア部会では、新宿2020サポーターを一つのきっかけにして新宿区のボランティア活動や地域活動の担い手となる人づくりが促進され、サポーター制度が終わった後も、サポーター登録者が何らかの活動を続けていると良いという意見が出ていました。大会終了後を見越して、サポーターの方々を地域のボランティア活動等につなげていく橋渡しとな

る取組みについて、ぜひとも考えていく必要があるということです。

具体的には、例示に記載しているとおり、メール等によって他のボランティア活動の紹介を積極的に行うことや、今後サポーターの方々が別の活動を行うとしたら何をしたいかということ聞き取って、それに応じて次の活動につなげるコーディネートをするということが考えられます。

このように、サポーターの方々が地域のボランティア活動に積極的に参加するようになれば、新宿区における東京2020大会のレガシーの一つになると思います。

最後に、できること、できないことがあるとは思いますが、この新宿区独自のボランティア制度がスタートして約半年という中で、ボランティア部会での意見を、できるだけ生かしていただけるとありがたいと思います。我々としても引き続き様々な提案、事業協力をしていきたいと考えています。

私からは、全体をまとめて報告いたしました。

部会員の方からご意見・補足等がありましたら、お願いしたいと思います。

【委員】

新宿未来創造財団では、新宿2020サポーターの受付事務を受託しています。先ほど報告がありましたが、1ページ一番下に、大会気運醸成イベントにおいて、ボランティア気運を醸成してはというところと連動し、大会250日前記念イベントで、東京2020サポーターコーナーを作ってはどうかという意見が上がっています。これについて、必要に応じて財団の中で調整のうえ、こういったコーナーを設けたいと考えています。パネルなどを使って、サポーターの活動を示していくとともに、興味を持って登録を希望された際は、その場で登録ができるという形にしたいと思っています。そして、このブースにはサポーターの方にいただき、サポーターとして活動している生の声をその場で興味を持った方に発信していただければ、より良いものになるのではないかと考えています。詳細は、また区と調整させていただきたいと考えています。

【鈴木副座長】

ありがとうございます。

【委員】

報告の中で、大会後のサポーターの皆様へのボランティア活動の案内という話がありましたが、社会福祉協議会では、地域の中で様々なボランティア活動をコーディネートしています。

報告の中にもあったとおり、新宿2020サポーターは、一般的に地域でボランティア活動をされているような年代の方よりも少し若い40代、50代の方が多いということで、地域活動の中では大変貴重な人材と捉えています。そのため、ぜひこのサポーター活動をきっかけに、大会終了後は地域の活動にも参加していただきたいと思っていますので、例示に挙がっているメール配信等によるボランティア情報の提供等を行い、大会終了後は地域の中で活動していただけるよう、社会福祉協議会の方でコーディネートしていければ良いと思っています。ぜひ今後ともよろしく願いいたします。

【鈴木副座長】

ありがとうございます。

【委員】

10月24日に新宿御苑にて森の薪能を開催します。雨天の場合は新宿文化センターで行いますが、演目は能と狂言で、狂言の方は野村萬齋さんにお越しいただきます。狂言は日本の伝統芸能で、室町時代から始まったものです。サポーターさんには非常にやる気のある方が集まっているということで、この機会にぜひとも萬齋さんの話を聞き、伝統芸能を見ていただければと思います。

夜の7時開演で2時間の予定ですので、中学生にご参加いただくのは時間的に難しいかもしれませんが、席は用意できませんが、7時少し前に来ていただいて、お客様のご案内を含めて体験しに来ていただくと良いと思います。

【鈴木副座長】

そういった機会がありましたら、サポーターさんにとってもすごく貴重な機会になるかと思えますので、また後ほど調整させていただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

情報提供して、こういったイベントがあるので参加してみませんかというご案内はできるかと思えます。また、詳細を詰めていただければ、お願いできると思えます。ありがとうございます。

【委員】

PR活動というと、やはりSNSを使った発信はどの会議でも言われていることかと思えますが、実際はやはりインフルエンサーが発信しないと情報が拡散していかないと思えます。その点はどのようにお考えでしょうか。

【渡邊部会長】

部会の意見としても、SNS等のツールを使ってPRすること自体は、もう常識ではないかというものでした。では、具体的にどうするか、ということは今後検討が必要ではないかと思えます。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

インフルエンサーを通じたPRが非常に効果的という意見は、東京2020大会普及啓発部会の中でも出ていたと思えます。その辺りはなかなか行政としては不慣れなところがあり、まだ具体的な方法などは決まっていないため、ぜひその点についても助言いただければと思えます。また、イベントに関連しては、アスリートの方を通じて発信していただくことで大きな効果が見込めると思えますので、そういった中でもボランティア情報の発信がもし可能であれば、検討していきたいと思えます。

【鈴木副座長】

部会としては、全体的にこうしたら良いのではないかという理念的な意見が多かったと思うので、これが採用されて実際に行う際には、具体的にどうするかということはこれから詰めの

検討が必要と思います。

【委員】

新宿区の外国人の住民では中国の方が一番多いと聞いたことがあります。中国人のインフルエンサーとしてすごい方がいらっしゃるようなので、そういった方を活用して、外国の方に向けたPRをしていくことも有効かと思えます。

【村岡座長】

ありがとうございました。

2つの部会の報告が終わりましたが、今回のご意見を受けた新宿区の取組みについて、ご説明いただければと思います。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

まず、この間、部会の皆様におかれましては、3回にわたって部会に参加していただきありがとうございました。会議への参加だけでなく、実際の区の事業も見ていただいた上で、非常に濃密な議論をしていただけたと考えています。ありがとうございました。

まず、資料3「部会意見を受けた現時点における区の取組みについて」をご覧ください。

今回、様々ないただきましたご意見を踏まえて、区の取組みに反映させていきたいということで、現時点の考えをまとめた資料です。

まず、1ページ目です。大会250日前記念イベントについて、本年12月1日に落合第二中学校と落合第三小学校、落合第二地域センターにて開催するイベントです。

3点ございますが、1点目として、貴重な体験の機会の創出ということで、国立競技場で開催される陸上競技を中心とした体験教室や、パラリンピック競技の体験などを行っていきたく考えております。特に、こういったものを通じてアスリートとの触れ合いや、そういった記憶に残る貴重な体験を創出していきたく考えています。

また、落合地域で開催ということもあり、染色文化を伝える染め物体験等のコンテンツも実施します。

2点目でございます。イベントの最初から最後まで楽しめる内容ということで、途中で飽きて帰ってしまうといったことがないように、コンテンツそのものも充実させていくことのほか、スタンプラリーで会場の様々なところを回っていただくような工夫をいたします。

それから、イベントの最後にお楽しみ抽せん会を行うことで、1日を通して参加していただく方を増やしていきたいと考えています。

3点目でございます。多方面からのイベントPRということで、広報やチラシでのPRはもちろんですが、新聞折り込みや、ゲストアスリートの方からの情報発信など、多くのチャンネルを使ったPRを行っていきます。

また、今回は落合地域での開催ということで、ぜひ地元の方に多く参加していただきたいと考えていますが、落合地域の駅などを拠点としたPR活動ということで、今、地元の中学生の方にご協力をいただいてPRができないか、検討を進めているところです。

続いて、2ページ目、新宿2020サポーターについてです。

1点目、大会250日前記念イベントにおけるPRです。イベントの中で2020サポーターの活動紹介、それから区の様々な分野で行われているボランティア活動の紹介等もあわせて行っていくことで、ボランティア気運を醸成していきたいと考えています。

2点目、体験交流型の研修を通じて、サポーターどうしの交流の機会を創出するという事です。研修会につきましては、2020年1月以降を予定し、その内容を今検討しているところですが、単に座学で話を聞くというのではなく、まちに出て外国人の方との触れ合いの中で、実際に体験をしていただいたり、サポーター同士の交流、意見交換なども研修の内容として盛り込んでいきたいと考えています。そういったことを通じて、人と人とのつながりや、またサポーターの方の新たな気づきといったものを創出していきたいと考えています。

また、こういった中で、地域のボランティア情報などもPRしていければと考えています。

3点目、新宿2020サポーターのPRの工夫です。

こちらについては、新宿区の広報紙やホームページの中で、単なる制度の紹介ではなく、実際の活動風景などを盛り込む形で、新宿2020サポーターに参加することの魅力やメリットなどをPRしていきたいと考えています。

3ページ目でございます。

東京五輪音頭-2020-についてです。本年度は5月から6月にかけて、地域センター10所で講習会を実施しまして、どの会場も50名以上の参加をいただき、非常に盛況な講座になりました。これをさらに活用していくということで、3月29日に実施する新宿パレード2020でや来年の大会期間中のイベントの中で東京五輪音頭を披露していただく、いわゆる新宿チームを今後結成していきたいと考えています。5月から6月に行った講習会と同様の形で、1月から2月に地域センター10所で実施していきたいと考えています。そういった中で、新宿チームとして、参加したい方を募っていきます。

これ以外にも様々なご意見をいただきました。例えば、新宿パレード2020についてもご意見いただきましたが、こちらについては、パレードの実行委員会の方で詳細な検討を進めているところです。詳細については、また次回の区民協議会の中で報告したいと考えています。

【村岡座長】

ありがとうございました。

それでは、委員の方から何かご意見、ご質問等ございますか。

【委員】

新宿チームを結成することはすごく良いと思いますが、どのくらいの人数を想定していますか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

人数については、特に今のところ上限は設けていません。3月の新宿パレード2020については、新宿通りでの開催を予定していて、一定の広さを確保できますので、参加希望の方にはできるだけ多く参加していただきたいと考えています。

【委員】

今年度の講習会の実績ですと、先ほど約500名参加という報告があり、昨年度も300名ほどいらっしやったかと思いますが、同じ方が重複して参加しているのでしょうか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

今年5月から6月にかけて10回行いましたが、毎回参加していただいている方もいらっしやいましたので、延べ人数ということになります。

【村岡座長】

他にご質問等いかがでしょうか。

【委員】

前回の大会500日前記念イベントにも多くのボランティアの方々が参加されて様々な経験をして、良いところもあれば、少し反省点もあったと思います。同じように、今回の大会250日前記念イベントにも既に登録されている200名ほどのサポーターの方々が参加され、色々と学ぶことがあると思いますが、そのような計画はあるのでしょうか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

ありがとうございます。

前回のイベントのときも、実際に経験していただいた方からはこういうオリンピック・パラリンピックの気運醸成に携わる経験ができて非常に良かったという感想をいただいています。

今回のイベントにつきましても、新宿2020サポーターの皆様運営を担う活動をお願いする予定です。実際の活動内容につきましては、今調整をしているところでございますが、募集人数は、午前と午後で、各30～40名程度を集めたいと思っています。

【村岡座長】

ありがとうございます。

それでは、今後の取組みの進捗状況については、先ほどこの場でいただいた条件などを踏まえながら、ぜひそこはお考えいただければと思いますし、次回以降の協議会で情報共有の場を持つことにしたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、次に次第の2、区からの情報提供についてです。

前回5月の協議会から半年近く経ち、大会に関する新しい動きも出てきているかと思います。

大会に関する情報共有は、この協議会の設置目的の一つでもあり、各団体の今後の取組みにも関わってくると考えますので、大会に関する情報提供を議題の一つとさせていただき、現時点における大会に関する情報をこの場で共有したいと思います。

それでは、事務局の方から説明をお願いいたします。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

まず、「東京2020オリンピック・パラリンピック開催まであと1年！記念イベント」について、こちらは7月27日、28日の2日間で、新宿未来創造財団の主催で実施をしたものですので、委員から報告をお願いいたします。

【委員】

こちらは、オリンピック・パラリンピック開催1年前イベントとして実施しました。場所は、コズミックセンター大体育室及び小体育室で実施し、また共同開催として、新宿区生涯学習スポーツ課の方で「スポーツを科学する」というイベントを行いました。主催は新宿未来創造財団、後援を新宿区体育協会にお願いしました。

実施内容は、主に6点ございます。

まず、1点目、スポーツ教室として、投げ方教室、バスケットボール教室、走り方教室、空手道教室の4つを実施しました。こちらは、事前に財団のHPで募集をしまして、応募者の中から抽選をさせていただいたところです。

2点目は、デモンストレーション及び体験です。走り高跳びやハードル走、護身術体験のほか、棒高跳びやBMXレーシング、車イスレーサーといった内容のVR体験を実施しました。

3点目は、東京2020大会パートナー企業によるお楽しみ体験コーナー、また、4点目は、新宿区によるオリンピック・パラリンピックPRコーナーです。

5点目は、同時開催の「スポーツを科学する」、そして、6点目として、フードコーナーを設けました。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

ありがとうございました。

続いて、新宿区の気運醸成事業の報告です。

初めに、7月15日に開催しました、「やってみよう！アーティスティックスイミング」というイベントでございます。

三井梨紗子さんと、ラスベガスのショーパフォーマーをされている宮崎夏実さん、2人に講師をしていただき、アーティスティックスイミングの体験会を実施しました。募集を開始してすぐ定員が埋まるほど、非常に人気の講座でした。前半は、2人が講師になり、NHK2020応援ソング「パブリカ」の曲に合わせて、子どもたちにアーティスティックスイミングを教えるという内容で、後半は、2人の実際の演技を鑑賞するというものでした。宮崎さんはアメリカから帰ってきて間もなく、2人で合わせて練習する時間がほとんどなかったのではないかと思います。2人が昔ペアを組んで大会に出たというお話し、非常に息の合った、迫力のあるパフォーマンスで、子どもたちが非常に驚いていました。アンケートも取ったところ、非常に好評でした。

続いて、広報紙の特集号についてです。こちらは、8月5日に発行しました。国立競技場の陸上競技で活躍が期待される桐生祥秀選手のインタビュー、それから大会のエンブレム製作を手掛けた野老朝雄さんと区長との対談などを掲載しています。

桐生選手のインタビュー映像については、デイカウンターでも放映しています。今週まで放映していますので、ぜひご覧いただければと思います。

続いて、窓口等における大会気運の醸成です。

1点目として、証明書類や窓口の封筒に、エンブレムと「みんなの歓声 みんなが輝く」と

いう区内の中学生に考えていただいたスローガンを掲載する取組みを、今年度からスタートしています。新宿区オリジナルのデザインになっていますので、ぜひこの機会に利用していただければと思います。

2点目として、オリンピックの開会式が金曜日に行われるということで、毎週金曜日に窓口職員が大会エンブレム付きのウェアを着用して、職務を行っています。

3点目として、この第一分庁舎のエレベーターにラッピングをしています。今年度は各特別出張所、産業会館のエレベーターの扉についてもラッピングを順次進めていきます。

続いて、新宿区東京2020オリンピック・パラリンピック区民参画事業助成についてです。

1回目の募集が終了し、11事業を決定しました。一部紹介しますと、ボッチャを通じて交流を深める地域対抗ボッチャ大会を実施したり、地域のイベントの中で東京五輪音頭を踊っていただいたり、また、アスリートを呼んでパフォーマンスをしていただいたりといった事業内容となっています。そのほか、オリンピック・パラリンピックに関するクイズ大会を行ったところもあります。

現在、第2回の募集をしています。9月26日の締切で、受付を行っているところです。

続いて、各地区の取組みとして、3点ほど紹介いたします。

1点目は、フットサル交流会「新宿グローバルカップ」を5月12日に開催しました。子どもから大人まで様々な方々が参加するイベントとなりました。

2点目は、大久保・百人町地区クリーン活動です。大会エンブレム入りのビブスを参加者に着用していただいて、まちの美化活動を行っていただいています。大会本番に向けたおもてなしということで計画し、活動を進めています。

3点目は、笹笹町地域にて、9月29日に大会マスコットであるミライトワとソメイティを招くイベントの開催を予定しています。

それから、今月からスタートする、ラグビーワールドカップ2019のパブリックビューイングイベントとして、歌舞伎町シネシティ広場と伊勢丹新宿本店の屋上、2会場で開催します。9月20日に開幕して11月2日決勝までの間、開催していますので、ぜひ会場にお越しいただければと思います。よろしく願いいたします。

続きまして、パブリックビューイングの基本ガイドラインが7月に大会組織委員会から示されたため、紹介いたします。

パブリックビューイングが実施できる団体が規定されており、行政関連のほか、町会・自治会、商店会等様々な団体が幅広く開催できることになっています。競技を放映するイベントとしては、東京2020ライブサイト、コミュニティライブサイト、パブリックビューイング、3つに分かれています。ライブサイトについては、競技中継のほか、ステージイベント、飲食の販売など、イベントの様相を呈しているものがライブサイトになりますが、こちらは実施主体が東京2020大会組織委員会、地方自治体等に限定されています。一方、パブリックビューイングについては、先ほど紹介した団体が主催できるというものですが、競技中継のみが行われるという仕組みになっています。

なお、パブリックビューイングの実施にあたっては、大会組織委員会の承認、それから放映権者の承認という2段階の承認が必要となります。別途放映権料が発生する場合もあるということです。

また、申請の流れについてですが、具体的な申請書の様式や申請のスケジュールについては、来年になってから示されるということです。情報が示されれば、共有させていただきたいと思います。

それから、費用負担についてです。必要な費用については、全て実施主体に払うことになっています。放映権料については、NHKは原則として無料、民法による放送番組は別途制作協力費を負担することとなっています。また、CMやスタジオ部分の放映はカットしなければならないなど、上映できる映像の細かい規定もあります。

今後については、2020年1月頃に詳細な内容が公表されるということですので、公表されれば、また情報共有させていただきたいと思います。

続きまして、聖火リレーについてです。

聖火ランナーの募集は8月31日で既に終了していますが、東京都の聖火リレー実行委員会における募集人数は165名です。今後、実行委員会の方で選考が行われ、12月頃に実際に走るランナーが決まるということです。同じ頃に、実際に走るルートなども明らかになってくるという状況です。

続きまして、オリンピック・パラリンピックのメダルについてです。こちらについては、1年前のイベントの中で、詳細が公表されました。

オリンピックのメダルは、重さが概ね500グラムから550グラムほどになっています。また、パラリンピックのメダルは、側面に凹凸がついていて、触って金メダル、銀メダル、銅メダルがわかるデザインになっています。

こちらは、今年3月までご協力をいただいた「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」で回収した小型家電の金属からつくられたものです。

次に、チケット販売についてです。

オリンピックのチケットは、1次抽せんから1次抽せんの追加販売まで終了しており、今後、2次抽せんの販売は秋頃からスタートするということです。また、チケット販売所による販売は、来年の春頃から実施予定となっています。

パラリンピックのチケットについても、1次抽せんは終了しており、今後2次抽せんについては、来年行われるということです。

続いて、東京2020公式アートポスターの制作についてです。こちらは、制作者の中に野老朝雄さんがいらっしゃいます。

続いて、新宿区で開催するパラリンピック関連特別講座について、ご案内いたします。こちらは、11月2日14時から16時、新宿文化センターで開催する講演会です。日本パラリンピック委員会副委員長の高橋秀文さんに講演していただくことになっていますので、ぜひお越しいただければと思います。

最後に、9月15日に開催されるマラソングランドチャンピオンシップの交通規制のお知らせです。こちらは、来年のマラソンの日本代表選手の選考レースになっており、実際に東京2020大会のコースとほぼ同じコースを走ります。異なるのは、国立競技場がまだ完成していないため、明治神宮外苑がスタート、ゴール地点ということになっています。

当日、スタート時間は、午前8時50分から男子、9時15分から女子ということで、大変長い間交通規制が敷かれるということです。ご迷惑をおかけするかと思いますが、よろしくお願いいたします。

報告は以上です。

【村岡座長】

ありがとうございました。

以上をもちまして、令和元年度第2回新宿区東京2020大会区民協議会を閉会いたします。

皆様方ご協力のほど、大変ありがとうございました。

次回の第3回協議会については、12月から1月の開催を予定しております。次回が今年度の最後の協議会になります。改めまして後日、事務局から開催通知をお送りしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これもちまして閉会します。ありがとうございました。

<閉会>